

## 平成21年度プロジェクト研究評価【中間評価】

(評価の方法)

- ・研究責任者が作成した研究計画、自己評価及び研究報告会をもとに、政策研究戦略室で評価を行った。
- ・研究報告会は、第三者である専門家として各プロジェクト研究に関連する分野の外部有識者、地方教育センター関係者、文部科学省関係者、所内研究者が参加して開催した。

研究課題名	達成目標	評価	コメント
教員の質の向上に関する調査研究 〔平成19～22年度〕	<p>〔中間的な達成目標〕 教員の研修や指導力の向上、教員評価などについて、先行研究の整理、外部講師を招いてのヒアリング、研究会などを通じて、課題を整理して研究の方向性を明確にするとともに、これらの調査研究の内容を中間的な報告書にまとめる。</p> <p>〔最終的な達成目標〕 教員政策の動向も踏まえながら調査研究を進め、教員の指導力の向上、研修のあり方などの事項について研究成果を最終報告書にまとめ、教員の質の向上に関する施策の企画立案にとって有意義な知見を提示する。</p>	計画どおり進めて良い [A]	<p>教員の研修の状況や優秀教員表彰制度等について、関連する調査が着実に実施され、結果が整理されている。</p> <p>今後、最終的な達成目標の実現に向け、対象分野によっては進捗状況に遅れが見られることにも留意しながら調査研究に取り組んでいくことが期待される。</p>
教育条件整備に関する総合的研究 〔平成20～22年度〕	<p>〔中間的な達成目標〕 学校の適正配置、適正規模に関する全国の実態の解明、研究方法の構築</p> <p>〔最終的な達成目標〕 地域特性に応じた学校の適正配置のあり方の提案、学校の適正規模に関する知見の整理</p>	計画どおり進めて良い [A]	<p>順調に研究が進捗している。</p> <p>行政との連携を図りつつ、教育委員会関係者にわかりやすい形で研究成果が提示されるよう調査研究の収斂を図っていくことが期待される。</p>

評価については、以下の4段階により行った。

A：計画どおり進めて良い、B：計画を一部見直す必要がある、C：計画を大幅に見直す必要がある、D：計画を中止すべきである

研究課題名	達成目標	評価	コメント
F Dプログラムの構築支援とF Derの能力開発に関する研究 [平成20～22年度]	<p>〔中間的な達成目標〕            多様なF Dプログラムの体系化・構造化(F Dマップの開発)と、F Dプログラム作成の際に準拠すべき、大学教員としての基本的な要件枠組みの提示を通して、各大学がF Dプログラムを構築する際のサポートとなる知見を体系化する。</p> <p>〔最終的な達成目標〕            上記に加えて、F Dの企画・運営を担当するF Der(ファカルティ・ディベロッパー)に必要とされる能力とは何であり、それが効果的に展開される条件等を明らかにする。</p>	計画どおり進めて良い [A]	<p>「F Dマップ」の作成などF Dの実践・普及を意識した調査研究手法がとられ、セミナー等の普及に向けた取組も積極的に行われている。</p> <p>今後、大学教育をめぐる様々な課題をも考慮しつつ、現場での実践に一層資するような研究成果が期待される。</p>
生涯学習政策の変動とその評価に関する研究 [平成20～22年度]	<p>〔中間的な達成目標〕            市町村合併以後の生涯学習政策の特徴を明らかにする。</p> <p>〔達成状況〕            市町村が現在抱える生涯学習制度や組織・機構、政策に関わる課題を明らかにする。</p>	計画どおり進めて良い [A]	<p>生涯学習を振興する上では、関連施策について総合的な分析を行うことは重要である。</p> <p>本研究において、これまでの国の施策については既に一定の整理が行われているが、今後、市町村における施策立案に反映されるような調査研究を進めていくことが期待される。</p>

評価については、以下の4段階により行った。

A：計画どおり進めて良い、B：計画を一部見直す必要がある、C：計画を大幅に見直す必要がある、D：計画を中止すべきである